

1 主題名 だれとでも友だちで(2-(3)信頼・友情)

2 資料名 だれとあそぼうかな (日本標準)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

3年生になると、友達関係が広がり、グループで活発に活動することが増えてくる。この頃の児童には、自己中心的な行動も見られるので、気の合わない友達をグループから排除しようとしたり、友達と対立して衝突したりしてしまうことがある。そこで、友達の気持ちを考えた行動をとったり、誰とでも仲良くかかわったりすることのできる集団を積極的に育成していくことが大切である。そのためには、特定の友達だけでなく、様々な友達のことをよく理解し、信頼し、助け合う心を育てていく必要がある。誰に対しても分け隔てなく真心をもって仲良く接することのできる態度を育てたいと考え本主題を設定した。

(2) 児童について

クラス替えのあった3年生も半年が経ち、ほとんどの児童がクラスに慣れてきた。休み時間になると、仲のよいグループで体育館や図書室などに行き、楽しそうに時間を過ごしている様子が見られる。また、グループ活動では、積極的に話し合ったり、仲良く分からない問題を教え合ったりする姿が見られるようになってきた。

しかし、特定の気の合う者同士で集団をつくっている様子が見られ、友達関係が固定化しつつある。これまでも、3人の仲良しグループの中で、1人が友達を独占しようとしたため、友達の取り合いになってけんかが起きるといったトラブルがあった。また、放課後遊ぶ約束をしたが、予定が合わず、誰とも遊べなかったという児童や、自分から声をかけることが苦手な1人でいがちな児童もいる。

(3) 資料について

主人公と仲良しの友達さっちゃん、1年生のときから大の仲良しである。3年生になってクラス替えがあったが、2人はまた同じクラスになり大喜びをした。その2人に新しい友達ができからは、3人で遊ぶようになった。しかし、さっちゃんがその友達と仲良くしているのを見ると、主人公はさっちゃんを取られてしまうように感じ、寂しい思いをしている。ある日の昼休み、さっちゃんが主人公を遊びに誘うが、2人だけで遊ぶのではなく、他の子と一緒にドッジボールで遊ぶことになった。主人公はクラスの人々と遊ぶことに戸惑いながら遊びに行くが、ドッジボールの後、いろいろな友達が話しかけてくれ、うれしい気持ちになるという話である。

本資料は、さっちゃんと2人きりで遊びたい主人公の気持ちに共感させることができ、その上で、特定の友達と仲良くするだけではなく、ちょっとしたきっかけで、誰とでも仲良くなれることやその楽しさに気づかせるのに適している。

(4) 指導について

児童が主人公の気持ちに沿って考えられるように、資料を3つの部分に分けて展開していく。部会テーマ「友達の思いや考えを受けとめ、話し合う子どもの育成」に迫るために、主人公の気持ちを十分理解させることが、中心発問での話し合いを深めると考えたからである。

はじめに、クラス替えがあってから新しい友達ができただけを聞き聞かせ、主人公が寂しい気持ちをもっていることを理解させる。次に、主人公がさっちゃんからドッジボールに誘われたとき、みんなではなく、2人だけで遊びたいという主人公の気持ちを理解させる。その上で、主人公の行動を考えさせる。いやだ遊びに行く、遊びに行きたくないなどの多様な考えを児童から引き出したい。終わりの読み聞かせでは、主人公のその後を当てた中心発問をする。様々な考えが出されることが予想されるので、主人公の気持ちの変化を押さえながら価値に迫っていきけるようにする。ここで、じっくり考えさせることで、これからのよりよい友達関係を考えるためのきっかけとしたい。

また、「見つめる」、「高める」段階で、資料と自分の経験とを重ね合わせて考えさせる。すぐ人に声をかけることができる活発な子もいれば、なかなか声をかけられない子もいる。いろいろな子がクラスにいることに気づかせたい。そして、ちょっとしたきっかけや一人一人の心配りで友達の輪が広がっていくことをとらえさせたい。

- 4 本時のねらい
友達のよさを知り，進んで友達関係を広げていこうとする心情を育てる。
- 5 準備物
資料，登場人物の絵，ワークシート
- 6 本時の展開

| 過程 | 主な発問と予想される児童反応 | 支援（・）と評価（☆） |
|-----------------|---|--|
| 気づく | 友達について話し合う。 ○友達がいてよかったなあと思うことは何ですか。 ・一緒に遊べて楽しかった。 ・困ったとき，助けてくれた。 | ・今までの経験を自由に語らせる。 |
| 考える ・ 深める | 資料「だれとあそぼうかな」の前半部分を読んで話し合う。 ○さっちゃんとひかりちゃんが2人だけで話しているとき，まいちゃんはどんな気持ちだったでしょう。 ・さみしい。 ・仲間はずれにされている。 資料の中盤を読んで話し合う。 ○しぶしぶみんなの後ろについていったときのまいちゃんは，どんな気持ちだったでしょう。 ・さっちゃんと遊びたい。 ・他の子と一緒になんていやだな。 ○みんなとドッジボールをしようと言われたとき，まいちゃんはどうしたでしょう。 ・さっちゃんがいるし，みんなと遊ぼう。 ・本当は嫌だけど，仕方ない。 ・さっちゃんとだけ遊びたいから断ろう。 資料の後半を読んで話し合う。 ○ドッジボールはどうして楽しかったのでしょうか。 ・みんなと一緒に遊んだから。 ・みんなとなかよくなれたから。 ◎まいちゃんは，次の日からどんな気持ちで遊んでいるでしょう。 ・さっちゃんがいなくても大丈夫。違う子と遊んでみよう。 ・昨日楽しかったから，さっちゃんだけではなくて，みんなと一緒に遊びたいな。 ・さっちゃんと遊びたい気持ちは変わっていないけど，他の子も誘ってみようかな。 ・やっぱり，さっちゃんと遊ぶほうがいいな。 | ・新しい友達と仲良くなるさっちゃんの様子と対比させながら，友達をとられてしまうように感じている主人公の寂しい気持ちを捉えさせたい。 ・主人公は本当はさっちゃんとだけ遊びたい気持ちをつかませる。 ・考えを発表する際，どうしてそう思ったのか理由も発表させる。 ☆主人公の気持ちになって考えることができたか。（発言） ・さっちゃんとだけよりも，多くの仲間といることが楽しいことに気づかせる。 ・ワークシートを配布し，考えを書かせる。 ・様々な考えが出てくることが予想されるので，主人公の気持ちの変化を押さえて価値に迫れるようにする。 ☆主人公の気持ちをとらえ，その後の行動を考えているか。（ワークシート） |
| 見つめる | 資料と自分の経験を重ね合わせて振り返る。 ○まいちゃんのようにあまり遊んでいない友達と遊んだことはありますか。 | ・今までの友達との関係を振り返らせたい。ちょっとしたきっかけで友達の輪が広がった経験を思い出させたい。 |
| 高める | これからの自分について考える。 ○これからどのように友達とつきあっていきますか。 | ・ワークシートに考えを書かせ，具体的に書いてある児童の意見を発表させたい。 |

- 7 授業の観点
価値に迫るための中心発問や補助発問の仕方はよかったか。